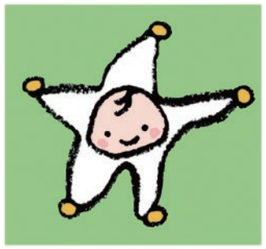


令和７年度 健やか親子21

内閣府特命担当大臣表彰

［受賞取組の紹介］

令和７年度

健やか親子21

内閣府特命担当大臣表彰

［功労者表彰］

［健やか親子表彰］

受賞取組の紹介

こどもまんなか

こども家庭庁

令和7年度　健やか親子21内閣府特命担当大臣表彰について

健やか親子２１内閣府特命担当大臣表彰について

趣旨

成育基本法に規定される成育医療等基本方針に基づく国民運動として健やか親子21が位置づけられている。
この国民運動の一環として、成育医療等基本方針の趣旨にのっとり、成育過程にある者の心身の健やかな成育並びに妊産婦の健康の保持及び増進に寄与する取組を推進している個人･団体･自治体･企業について、健やか親子21全国大会において表彰を行う。

〈参考〉健やか親子21内閣府特命担当大臣表彰実施要領▶
https://sukoyaka21.cfa.go.jp/wp-content/uploads/2025/07/sukoyaka21_award2025.pdf

健やか親子２１内閣府特命担当大臣表彰の種類

(1)　功労者表彰

成育過程にある者の心身の健やかな成育並びに妊産婦の健康の保持及び増進に寄与する取組に長年携わり、地域社会全体でこどもの健やかな成長を見守り育む地域づくりに貢献している個人及び団体を表彰するもの。

※令和７年度は個人48名、団体４が受賞

〈参考〉令和7年度内閣府特命担当大臣表彰プレスリリース▶
https://www.cfa.go.jp/press/6c5e5b5f-e087-4ac5-aae8-7e7cd39fee64

(2)　健やか親子表彰

国及び地方公共団体が講ずる成育医療等の提供に関する施策に協力し、先駆的な取組により、成育過程にある者の心身の健やかな成育並びに妊産婦の健康の保持及び増進に寄与する自治体･団体･企業を表彰するもの。

■最優秀賞･･･社会福祉法人麦の子会
■自治体部門　優秀賞･･･愛知県大府市
■団体部門　優秀賞･･･豊田市男性保育師連盟
■企業部門　優秀賞･･･三起商行株式会社（ミキハウス）

表 彰 式

令和7年度健やか親子２１全国大会（母子保健家族計画全国大会）

■日時：令和７年11月28日（金）10時30分～
■場所：こども家庭庁　14階大会議室

巻頭に寄せて

岡　明　埼玉県立小児医療センター病院長
健やか親子21推進本部　会長

「健やか親子２１」は、関係者、関係機関・団体が一体となって推進する母子保健の国民運動として、平成13年より展開されてきており、令和５年度以降は、成育医療等基本方針に基づく国民運動として位置付け、医療、保健、教育、福祉などのより幅広い取組を推進しています。

母子保健分野での国民運動を実施している国は少なく、わが国のこの活動は世界的にも非常にユニークで貴重な取組です。この「健やか親子２１」国民運動の一環として、成育医療等基本方針の趣旨に則り、成育過程にある者の心身の健やかな成育並びに妊産婦の健康の保持及び増進に寄与する取組を推進している個人・団体・自治体・企業について、それぞれの具体的取組を国民の多くの方に知っていただくための取組の一つとして、「令和７年度 健やか親子２１内閣府特命担当大臣表彰（功労者表彰/健やか親子表彰）」を実施しました。

今回は健やか親子２１で掲げる課題・テーマに合致する活動をされている自治体、団体、企業から30件の応募（自治体６件、団体16件、企業８件）を戴きました。長年心理支援・家族支援を大切にし、養育者同士も繋がってこどもを大切にする活動が地域の安心につながっている取組や、多職種の連携、男性の育児参加の取組など、関係する皆様の創意と熱意を感じることが出来ました。オンラインや最先端技術を母子保健に活用し子育てを支援していく今日的な取組の応募も多数いただき、応募があったいずれの取組も健やか親子２１の趣旨に沿った大切な取組でした。その中で、今年度の審査会では、対面でのコミュニケーションを引き続き大切にしている取組が改めて注目され、目と目を合わせる大切さについて多くの審査員の共感を得た様に思います。

厳正な審査を経て、内閣府特命担当大臣表彰（健やか親子表彰）最優秀賞には、「社会福祉法人麦の子会」が選ばれました。地域における児童発達支援センターを中心として、長年にわたり、育児支援・発達支援・居場所事業・医療支援・就業支援など妊娠期から高齢者まで切れ目のない取組における多岐にわたる実績、またそのことによる継続して支援を受けてきたこども達やその保護者の方々が職員やパートとして就労するなど、「支援される側から支援する側」への循環の創設の実績が高く評価されました。

自治体部門優秀賞では、「愛知県大府市」が選ばれました。「10か月食べる機能健診」という他の地域ではなかなか見られない取組において、歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士、保健師、看護師という様々な業種の連携で行われているという点が評価されました。団体部門優秀賞では、「豊田市男性保育師連盟」が選ばれました。20年にわたり先駆的に父親の育児支援の取組を、男性保育士が中心となって行っている点が評価されました。企業部門優秀賞では、「三起商行株式会社（ミキハウス）」が選ばれました。学校への出前授業や妊婦が安全に訪れることのできる地域の会議室やイベントホールなどの場所で「ミキハウス プレママ・プレパパセミナー」を開催し、直接のコミュニケーションを重視した内容や本業とは分かれた独自の活動を行っている点が評価されました。

これらの自治体・団体・企業の活動は、すべてのこどもが健やかに育つ社会環境を構築するための具体的な活動の例として大いに参考になります。表彰式は令和７年11月28日にこども家庭庁内で行われました。

本顕彰事業を通じ、自治体、団体、企業で優れた取組がさらに全国に広がることを期待します。

健やか親子21内閣府特命担当大臣表彰　受賞取組の紹介

― 目 次 ―

令和7年度　健やか親子21内閣府特命担当大臣表彰について …… 1

功労者表彰 ［個人］

千歳 和哉 氏／北舘 里美 氏 …… 5
千葉 芳枝 氏／板橋 由紀 氏 …… 6
伊藤 映子 氏／髙木 学 氏 …… 7
米村 洋子 氏／葉山 正陽 氏 …… 8
大山 学 氏／寺﨑 ふじこ 氏 …… 9
和田 寿美恵 氏／小田切 いのり 氏 …… 10
松葉 はるみ 氏／岡 利津子 氏 …… 11
江口 秀史 氏／多賀 崇 氏 …… 12
渡邉 美也子 氏／中村 由美子 氏 …… 13
長井 順子 氏／辻 正子 氏 …… 14
永田 忠 氏／松井 須賀子 氏 …… 15
松永 伸二 氏／黒川 美知子 氏 …… 16
南 武嗣 氏／前田 タエ子 氏 …… 17
運天 啓一 氏／島袋 富美子 氏 …… 18
小橋 孝介 氏／長岡 美樹 氏 …… 19
蛯名 勝之 氏／赤尾 さく美 氏 …… 20

功労者表彰 ［団体］

特定非営利活動法人子育て支援ネットワークとくしま／杵築市山香愛育班 …… 22
羽生市母子愛育会連合会／点字印刷･出版　雑草の会 …… 23

健やか親子表彰

［最優秀賞］
社会福祉法人麦の子会 …… 25

［自治体部門 優秀賞］
愛知県大府市 …… 27

［団体部門 優秀賞］
豊田市男性保育師連盟 …… 29

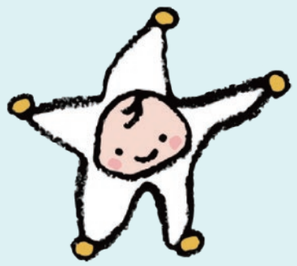
［企業部門 優秀賞］
三起商行株式会社（ミキハウス） …… 31

※受賞者取組の紹介につきまして、希望者のみの掲載をしております。

令和７年度

健やか親子２１内閣府特命担当大臣表彰

功労者表彰［個人］



功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **千歳 和哉**

主要経歴 **婦人科医**

［主要経歴までの略歴］

昭和60年：日本大学医学部卒業
都内で勤務後、平成8年より千歳産婦人科医院に勤務
平成27年：同医院の院長に就任

役職
青森県医師会 常任理事（平成11年～平成22年）
青森県臨床産婦人科医会推薦理事、東青地区理事
現在、青森県産婦人科医会 副会長

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

青森地域での産婦人科医不足を前に、母子が安心して出産・育児できる環境を守りたいとの使命感を抱いた。父と共に地域に根ざした診療を重ね、母子保健の向上と女性・若年層の健康支援に取り組むことが、自らの責務であると感じたことが原点となった。

取組をどのように展開しましたか？

院長として分娩・健診・産後ケアを一人で担い、地域の母子の安全を支えている。子宮頸がん検診やHPVワクチン接種を推進し、女性の健康増進を推し進めた。高校での性教育講話を15年継続し、行政と連携した切れ目のない支援体制の構築にも尽力している。

今後の展望

青森県全体の母子保健体制の充実をさらに進め、医療・行政・地域が協働する支援の輪を広げたい。若年層への性教育や健康教育を継続し、すべての女性が安心して妊娠・出産・子育てできる社会を実現するため、地域医療の担い手として努力を重ねていく。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **北舘 里美**

主要経歴 **管理栄養士**

［主要経歴までの略歴］

1991年　旧新里村に管理栄養士として入職。妊産婦・乳幼児への保健活動を展開。宮古市保健福祉部健康課主任栄養士、田老・新里・川井保健センター所長として勤務し、通算30年以上母子栄養改善業務に携わる。

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

家族構成の変化、ライフスタイルや価値観の多様化、食を取り巻く環境の著しい変化の中で、子どもが、健康で豊かな人間性を育むためには、健全な食生活を実践する力を養うことが必要と感じ、「食」の大切さを伝える取組を始めました。

取組をどのように展開しましたか？

訪問や健診等で、個々の状況に合わせた実行可能な食について寄り添う支援を行い、食育推進計画策定後は、他部署や多職種と連携して妊産婦・乳幼児対象の集団健康教室を開催。食生活改善推進員と協働して小学生に食の大切さを伝え、食への関心を高める活動を展開しました。

今後の展望

この度の表彰を賜り、ともに食育を推進してまいりました皆様に深く感謝をしております。今後も子どもの健やかな成長のためには「食」が大切であることを、関係機関や地域の方と連携し、地域に根差した事業を展開していきたいと考えております。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **千葉 芳枝**

主要経歴 **保健師として母子保健に従事**

［主要経歴までの略歴］

1990年水沢市（現：奥州市）に入職。保健師として妊産婦・乳幼児支援や思春期保健事業など母子保健分野に従事。コロナ禍においても妊産婦支援が継続できるよう努め、市内に分娩施設が無くなって以降は通院支援制度の創設など、安全安心に出産できる環境構築に取り組みました。

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

20年前には市内に7軒あった分娩施設が令和4年にすべて無くなり、妊産婦は車で片道40分前後の市外の分娩施設への通院を余儀なくされたことから、妊産婦からの不安や通院への負担の声に応える形で、通院支援や市内外関係機関とのネットワーク構築などの取り組みを始めました。

取組をどのように展開しましたか？

タクシー券給付事業や出産待機時の宿泊費助成などの通院支援や産後ケアの拡充を図るとともに、こども家庭センターを設置し「親子みらい応援事業」として保健・福祉・保育分野を横断した事業を実施し、妊娠・出産から子育てまで切れ目のない支援を目指して事業を展開してきました。

今後の展望

少子化の中にあっても引き続き妊産婦の出産や子育てへの不安が軽減されるような事業を積極的に推進していきたいと思っています。そして親子みらい応援事業のスローガン「子育ては楽ではないけど、楽しい」を妊産婦の方々が実感できるよう、寄り添った支援に取り組んでまいります。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **板橋 由紀**

主要経歴 **管理栄養士**

［主要経歴までの略歴］

1980年七ヶ浜町入庁。保育所・健康増進課等で43年にわたり母子保健事業に従事。1998年に、食育基本法の制定に先立ち、思春期までの子どもを対象とした食育事業を立ち上げ、ネットワーク会議を始め、食を通した保健事業に取り組んだ。

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

乳幼児健診等での食生活相談や健診に携わる医師の話、地域での食生活支援事業等を通し、子どもの食環境の変化に危機感を覚えた。そのため、改善のためには、関係機関との連携のもとに取り組むことが必要不可欠と考え、事業を立ち上げた。

取組をどのように展開しましたか？

町内の医師・歯科医師・幼稚園・保育所・小中学校の代表及び保護者会長等を構成員とする会議を開催し、子どもの食の現状の情報共有と対策について検討した。また、幼児と小中学生の親子を対象に食生活調査を実施し、結果を基に食育プランを策定しそれに基づく事業を展開した。

今後の展望

食育はスパンの長い取り組みだが、関係機関の連携の下に事業展開することで、子どもが望ましい食習慣を形成し、様々な食体験による豊かな食歴を獲得できると考える。将来の健康の保持増進のためにも、乳幼児期からの継続的な支援のため、更なる取り組みの検討ができればと思う。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **伊藤 映子**

主要経歴 **元群馬県助産師会理事**

［主要経歴までの略歴］

平成11年4月群馬県助産師会入会し市町村の母子保健事業に従事。平成13年以降地域母子支援センターの電話相談員や妊娠SOSの相談員を務める。令和元年公社群馬県助産師会立鈴の音助産院院長。令和2年公益社団法人群馬県助産師会業務執行理事令和4年公社群馬県助産師会監事

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

助産師になる前、小児専門病院でNICUに勤務し、多くの未熟児や早産児を目の当たりにして、助産師資格の必要性を痛感し、取得に取り組む中、母子保健事業の重要性を認識し、多くの産婦の支援を行い新生児の健やかな発育の一助になりたいと考え、取り組みはじめました。

取組をどのように展開しましたか？

群馬県助産師会に入会し、多くの先輩から助産師の重要性につき指導を受けたことを元にして、新生児・未熟児訪問（前橋市、旧北橘村）、地域母子支援センター電話相談員、股関節脱臼健診、母乳相談、母親学級、両親学級に取り組み、後進の指導も行いました。

今後の展望

現在は事業の第一線からは引退しましたが、今後後進の育成に協力したり、会の事業で困難が生じた時に経験者としてアドバイスしたりして、群馬県の母子保健事業の充実を応援していけたらと考えています。今後の若手の活躍に期待しています。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **髙木 学**

主要経歴 **小児科医・埼玉県医師会 常任理事**

［主要経歴までの略歴］

1977年　杏林大学医学部卒業、
　　杏林大学病院小児科学教室入局
1980年　髙木病院（現扶顛堂たかぎクリニック）勤務
1997年　髙木病院院長
2005年　埼玉県医師会理事
2017年　南埼玉郡市医師会会長
2024年　埼玉県医師会常任理事

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

埼玉県医師会理事として、2008年に埼玉県立特別支援学校医療的ケア運営協議会に委員として参加したことが、特別支援教育への関わりのきっかけとなった。以後2021年までマニュアル作りや教員への指導を行い、医療的ケア児の受け入れ拡大・充実に努めた。

取組をどのように展開しましたか？

当初は経管栄養・喀痰吸引・導尿のみがケアの対象だったが、徐々にケア対象を拡大し酸素療法中の学童のケアも受け入れられるようになった。また、2015年に、埼玉県障害児就学支援委員会委員に就任し、障害をもつ子供達が望ましい環境で就学出来るように指導・助言を行った。

今後の展望

今までの経験を生かし、今後はインクルーシブ教育の推進に関して教育機関に協力していきたい。その為には普通学校の教員への指導・研修が重要と考える。様々な特性を持った子供達に対応できる柔軟性を持った教育体制作りへの提言を行っていきたい。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **米村 洋子**

主要経歴 **出張専門米村助産所**

［主要経歴までの略歴］

1994年　出張専門米村助産所開業、同時期に柏市新生児訪問を開始し現在に至る。以後流山市、我孫子市にて母子保健活動継続中。
2004年～2018年　不妊相談事業
2007年　小児科勤務継続
2000年～2018年　千葉県助産師会中央にて役員歴任

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

自身の子育てで感じたことを助産師として地域の母子が穏やかに楽しく子育てができるように役立てたかった。助産師会では、仲間が活動しやすい体制つくりをしたかった。

取組をどのように展開しましたか？

新生児訪問と開業を同時期に開始し、妊娠前から子育ての中で不妊相談から両親学級、出産後は相談業務を通じ、母子の健康確認から母親に寄り添いながら育児全般の支援をした。また、多岐にわたる講演活動を行い、知識の普及啓発を継続している。助産師会では18年間役員を歴任した。

今後の展望

子育てが孤育てになりつつある中、思うようにいかない子育てをするママが「子どもはかわいい・子育ては楽しい」と思えるようにママとパパに寄り添いながら支援をしていきたい。今はパパの育児参加が増えているのでこれからはパパの育児支援にも目を向けていきたい。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **葉山 正陽**

主要経歴 **大船こどもクリニック 院長**

［主要経歴までの略歴］

1973年　日本医科大学　卒業
1980年　日本医科大学大学院　卒業
1982年　国立横浜病院　小児科
1985年　横浜南共済病院　小児科
1987年　大船こどもクリニック開設（院長）
1993年　鎌倉市医師会公衆衛生委員会委員

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

1980年日本医科大学大学院を卒業後、1982年から国立横浜病院小児科へ、1985年からは横浜南共済病院小児科を経て、1987年に開業し小児科医として地域の母子保健活動に積極的に取り組み、親と子の絆を深めよりよい子育てができるよう医師として携わること。

取組をどのように展開しましたか？

育児相談など、子育ての拠り所としての役割を果たすため、多くの講演会等参加し得た最新の情報を診療の場に還元することで母子保健の推進に尽力。公的には生活保護法による指定医療機関として、学校医並びに保育園医として行政と連携を取りながら保健事業の発展に従事している。

今後の展望

豊かな情報、多様性に満ちた社会、混乱しがちな医療の内で、心と心の結びつきを大切にした気持ちの通じる温かい小児医療を守り通すため、地域の母子保健活動に積極的に取り組み、よりよい子育てができるよう医師として努力を続けたいと考えています。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者　**大山 学**

主要経歴　小児科医

［主要経歴までの略歴］

1978年3月
聖マリアンナ医科大学卒業

1978年6月
聖マリアンナ医科大学小児科

1990年11月
（医）大山クリニック開業

2017年6月
（一社）横浜市医師会理事
都筑区医師会会長

2021年6月　都筑区医師会監事

2023年6月　（一社）横浜市医師会監事

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

小児科医となり色々な経験をして救急医療、健診、予防接種が子供の成長していく過程で大変に重要なことを痛感しました。クリニックを開院するにあたり自分の目標を子供達の成長にきちんと関わり続けられるようなかかりつけ医になれるようにと考えました。

取組をどのように展開しましたか？

1990年11月に開院し多くの子供達の健康を見守れるように、自院及び保健所での予防接種、乳幼児健診をおこない、複数カ所の園医、学校医を続けてきました。また医師会の役員、会長として休日診療所、夜間急病センターの運営に関わり救急医療の充実を図ってまいりました。

今後の展望

今後は子供達のすこやかな成長をめざすとともに積極的に成人になった子供達、お母様達の悩みの相談にのり、診察をし、治療をおこない、自分だけでは無理な場合は紹介もしていきます。地域の健康を守り、かかりつけ医として母子保健の充実･向上をめざしたいと思っています。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者　**和田 寿美恵**

主要経歴　白山市役所保健師として
長年にわたり母子保健に従事

［主要経歴までの略歴］

平成2年に旧松任市に保健師として入庁以来、乳幼児健診における母子の健全な発育発達への支援、新生児訪問や母子相談による母子の個別支援、子育てサークルの育成など地域ぐるみの育児支援体制の構築に従事してきた。

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

各種の保健事業を通じて、保健師として住民の声を直接聞く機会に恵まれてきた。一人ひとりの声を大切にし、行政が意図的に点を線につなぐ支援を行うことで地域の当事者同士がつながり、面となって住民主体の活動に発展していく様を住民から教わったこと。

取組をどのように展開しましたか？

虐待予防にも力を入れ、精神面へのケアに着目し、全国に先駆けた産後ケア事業の取り組みをはじめ、産後うつなどの保護者への支援に尽力した。グローバル化に対応した予防接種事業への取り組みや、コロナ禍においては新型コロナウイルスワクチン接種の推進にも携わった。

今後の展望

現在の教育委員会事務局子ども総合相談室に異動してからは、統括支援員となりこども家庭センターの統率に貢献するとともに、室長として部下の専門性を生かしつつ、子どもの最善の利益を大切にした相談業務を展開している。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者　**寺﨑 ふじこ**

主要経歴　立山町母子保健推進協議会会長、
富山県母子保健推進員連絡協議会
副会長

［主要経歴までの略歴］

昭和55年4月～現在
立山町母子保健推進員

平成9年4月～平成27年3月
同町母子保健推進協議会副会長

平成27年4月～現在
同町母子保健推進協議会会長

平成27年4月～令和7年3月
富山県母子保健推進員連絡協議会理事

令和7年4月～現在
同県母子保健推進員連絡協議会副会長

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

長男が幼い頃にいつも可愛がって頂いた近所の方が母子保健推進員をされており、県外から嫁いだ私にとって心強い存在でした。「私もこの方と一緒に活動してみたい」と思うようになり、親御さんや子供たちに寄り添いたいとの思いで仲間入りをしました。

取組をどのように展開しましたか？

親子の身近な相談相手として行政とのパイプ役を務めるほか、乳幼児健診会場の季節ごとの壁面装飾やペープサートを取り入れた手作り紙芝居の上演、また、保育所訪問では、手作りおもちゃや遊びの伝承を通して園児との交流を、推進員と協力して取り組んでいます。

今後の展望

子育て中の保護者の方は、インターネットなどで情報を得る時代となってはいますが、地域の子育てサロン等で対面でのふれあいの重要さを感じています。私たちが大切にしている「あったか心」が伝わるような活動を、今後も継続していきたいと思っています。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者　**小田切 いのり**

主要経歴　甲府市子ども未来部
子ども未来総室母子保健課　課長

［主要経歴までの略歴］

昭和63年4月山梨県甲府市役所に保健師として入職。健康衛生課、教育部学事課等で勤務し、新生児訪問事業や乳幼児健診などの母子保健事業や地域の健康を支えるための地区組織育成及び行政として学校保健に携わり、令和6年より現職に至る。

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

採用間もないころ地区担当保健師として、生活困窮等の多くの問題を抱える多子世帯に訪問し、庁内外の関係者･関係機関と連携しながら、本人や家族の自立に向けた支援に努めたことは、保健師の役割を強く意識するきっかけになった。

取組をどのように展開しましたか？

市民の利便性を考慮し、特定不妊治療や新生児訪問の体制構築と整備を行うとともに、住民と協働し、健康づくりを推進しソーシャルキャピタルの醸成に努めた。また、医師会と学校が連携し早期発見から早期受診につながる児童･生徒の学校検尿システムを整備し、学校保健の向上に努めた。

今後の展望

この度の受賞は、本市の母子保健事業の取組が評価されたものと大変うれしく、関係者の皆様に感謝致します。今後も専門職の母子保健課長として予防の視点を重視し、ポピュレーションとハイリスクアプローチの両面から、人と人のつながりを大切に地域に根差した活動を展開していきたい。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **松葉 はるみ**

主要経歴 **助産師**

［主要経歴までの略歴］

1998年　助産院を開業
1999年　出産に携わる
2023年～　長野県助産師会執行理事
2020年～　産後ケア事業

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

当時、病院出産後の母子分離により、母乳育児がスムーズにいかず、トラブルを抱えている母子が多くいました。また、父親の役割は仕事中心であり、母親が育児を担うのは当たり前のことで多くの悩みを抱えながら育児をしている母親と気持ちを共有したいと思いました。

取組をどのように展開しましたか？

助産院を立ち上げ母乳育児支援をしました。また、来院したお母さんたちと育児サークルを立ち上げ、勉強会など育児に関する情報発信をしてきました。自身も出産に携わることで、母乳育児や育児がスムーズにいくための環境作りを整え、産後ケア事業にも携わっています。

今後の展望

女性の社会進出もあり、育児の仕方も母親から夫婦に移行しつつ、自分を大切に考えながら育児をする好い面もある一方、個から孤立に悩む母親も増加してます。妊娠中から育児に対する夫婦の在り方を話し合い、家族を支援していけるよう取り組んでいきたいです。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **岡 利津子**

主要経歴 **健康福祉部長兼福祉事務所長**

［主要経歴までの略歴］

裾野市役所へ保健師として奉職。母子保健事業を最初に担当し訪問や相談対応をした。福祉部門では、関係機関と連携しながら困難事例にも対応した。令和2年より健康推進課長として、子育て世代包括支援センター設置や発達支援体制の構築などにも携わり、30年以上が経過した。

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

子育て支援の現場で、複雑かつ多様な課題に直面する中、個別支援だけでは限界があると感じた。関係機関との連携を強化し、包括的な支援体制を整えることで、より安心して子育てできる環境づくりが必要だと痛感したことが、取り組みのきっかけとなった。

取組をどのように展開しましたか？

コロナ禍においても母子保健事業や個別支援を継続しながら、子育て世代包括支援センターの設置運営や発達支援体制の構築を推進。関係機関との連絡調整を密に行い、課題の共有と役割分担を明確にしながら、地域に求められる支援体制の整備に取り組んだ。

今後の展望

近年、子育てを取り巻く環境の大きな変化を実感している。地域の子育て世代が安心して暮らせる環境づくりのため、多職種連携を深めつつ、地域全体で子育てを支える仕組みを構築するための取り組みを継続したい。また、後進の育成にも力を入れたい。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **江口 秀史**

主要経歴 **愛知県小児科医会会長**
江口医院院長

［主要経歴までの略歴］

1981年3月　大阪医科大学卒業
1981年4月～ 1985年3月
　名古屋市立大学大学院
1992年5月～同年12月
　埼玉医科大学総合医療センター小児科講師
2014年9月～ 2024年4月
　愛知県小児科医会理事･副会長
2024年5月～現在　愛知県小児科医会会長

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

小児の健康及び健全な成育を推進に向けて、愛知県小児科医会会員相互の交流･連携及び知識向上を促進する必要性を感じたため、同医会で主に会報の編集などに携わり、会員へ最新の医療情報やトピックスを提供することにより、愛知県における小児の保健･医療の充実を図った。

取組をどのように展開しましたか？

会員の知識や手技の刷新のために、勉強会の開催や会報の発行を主導してきた。また、保護者や養護教諭･保育士を対象にした乳幼児の健康や育児支援に関する講演会の開催、愛知県小児科医会が主催する各種委員会･協議会活動へ参加により、地域の小児の健康･健全な育成に寄与した。

今後の展望

進行する少子化、虐待、不登校、自殺の増加など、子どもたちが健全に育ちにくい社会環境が進行している。身体面だけでなく心理的および社会的因子を合わせて重視して、子どもたちの心身の健康を守る活動を、会員の力を借りながらこれからも進めていきたい。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **多賀 崇**

主要経歴 **小児科医師**

［主要経歴までの略歴］

1986年
滋賀医科大学医学部卒業、小児科入局

1988年
滋賀医科大学大学院入学

1993年
長浜赤十字病院小児科

1995年
滋賀医科大学小児科、以後スタッフとして小児がん診療に携わる

2025年
公立甲賀病院小児科部長（滋賀医科大学客員教授）

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

研修医のころに多数の小児がん患者を受け持ったこと、その当時小児がんは救命が困難な難病で、実際受け持ちの患者も多くがなくなった。しかしながら滋賀県でこの領域に携わる小児科医は数えるほどおらず、自らが関わり、少しでも多くの小児がん患者を元気にしたいと思った。

取組をどのように展開しましたか？

滋賀県で最も多く小児がん診療を行っている滋賀医科大学医学部附属病院の小児科医として30年以上にわたり、同疾患の診療、教育、研究などを行った。また、日本小児がん研究グループならびにその前身の研究グループの執行部として本邦の小児がんの臨床研究をけん引した。

今後の展望

第一線での診療は後進に任せ、指導的な立場として診療を続けたい。また、小児がんの滋賀県民への啓蒙ならびに長期フォローアップの必要性の理解の浸透を推進し、医療者のみならず行政や教育関係者、住民を含めた包括的医療体制の構築に尽力したい。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者　**渡邉 美也子**

主要経歴　一般社団法人滋賀県助産師会
助産師

［主要経歴までの略歴］

1993年～　総合周産期母子医療センター、総合病院で勤務

1996年～　勤務しながら教育機関において講師として看護師・助産師教育に携わる

2005年～　市町の新生児訪問・子育てサロン・両親教室等に従事

2008年　助産院開業

2025年～　産後ケア事業に従事

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

母乳で育てたいと思う母親が当たり前に母乳で育てられる社会にしたいという思いで開業。授乳が順調にいくと育児全体が順調にいくことが多い。また困難があっても共に乗り越えていくことで、自分らしく自信を持って育児できるという子育ての基盤づくりに取り組みたいと思った。

取組をどのように展開しましたか？

施設勤務においては母乳外来を立ち上げ、継続的に支援。国際認定ラクテーションコンサルタントの資格を取得し、訪問や電話、メールによる母乳育児相談を中心に支援活動を行い、育児不安の軽減に努める。また新生児訪問・産後ケア・両親クラスなど市町と連携し活動を行う。

今後の展望

孤立しやすい環境で、不安や心細さを抱えて子育てしている母親は多い。これからも母乳育児支援とともに、子どもが大きくなっても、小さな事でも、いつでも相談できる場所、必ずつながる場所として寄り添い、だれもが安心して子育てできる地域を目指して活動を続けていきたい。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者　**中村 由美子**

主要経歴　開業助産師
25年間地域母子の健康支援活動を実施

［主要経歴までの略歴］

1994年　助産師免許取得後、神戸大学附属病院周産期センター勤務

2001年　開業助産師として地域の母子保健事業に従事

2019年　京都橘大学　通信課程修了（認定心理士）

2022年　公益社団法人京都府助産師会　代表理事

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

京都市内の助産院での開業研修で、お産を中心とした地域母子支援活動を知り、分娩体験が、妊娠・出産・産後の母子の健康のみならず、更年期にいたる女性の一生にも長く影響することに強い感銘を受けた。2001年訪問中心の開業助産師として、私なりの支援活動を模索し始めた。

取組をどのように展開しましたか？

開業以来25年、自宅分娩、母乳育児支援、京都市委託事業などで地域の母子の支援活動を行ってきた。助産師グループで無料電話相談、家庭訪問、学校等で命の授業等を実施した。助産学生教育機関などの非常勤講師を継続担当している。現在は京都府助産師会代表理事として活動中。

今後の展望

未来に温かい心と健康な身体をつなげていきたい。一人ひとりに丁寧に向き合い、母子が心から安らげる場所を提供し、切れ目ない支援活動を続けていく。また「産婆さん」の時代から引き継がれている助産ケアの本質を、教育の現場で次世代に伝える役割も果たしていきたい。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者　**長井 順子**

主要経歴　助産師

［主要経歴までの略歴］

昭和61年～平成14年　看護師、助産師として総合病院に勤務後、看護学校で非常勤講師として勤務

平成14年～　出張助産業務に従事

平成15年～現在　妊産婦、新生児訪問、乳幼児健診、妊娠・出産包括支援事業、両親学級等に従事、地域の妊産婦等の支援に従事してきた

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

病院の助産師として多くの妊産婦に関わり、本来持っている母親としての力を最大限に引き出し主体的に向き合い自己決定を促す支援を行う中で自身の喜びにもつながる経験を積むことができ、母子の生命と尊厳を守るという使命感のもとに、妊産婦に寄り添う支援を行いたいと思った。

取組をどのように展開しましたか？

助産師としての地域貢献を考え出張助産業務を開始。妊産婦の産前・産後の孤立感に着目し、悩みや不安を抱え込まないよう家族とともに共有し大切に関わった。また、地域の乳幼児健診等の母子保健事業に積極的に参画。地域と協働で安心して子育てができる地域づくりを推進した。

今後の展望

妊産婦やその家族が身近に相談できる助産師として活動を続けながら、安心して子育てできる地域づくりを進めるとともに、小・中学校等若い世代に向けた日々の生活や健康に関する情報発信に積極的に取組み、若い世代の健康づくり、プレコンセプションケアを推進していきたい。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者　**辻 正子**

主要経歴　岡山市愛育委員協議会　会長

［主要経歴までの略歴］

平成元年4月～　内山下地区愛育委員、内山下地区愛育委員会会長

平成16年4月～　中央地域愛育委員連絡会会長

平成17年4月～平成28年3月　岡山市愛育委員協議会副会長

平成29年4月～　岡山市愛育委員協議会会長

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

地域の方々の健康づくりに貢献したいという思いから、愛育活動を始めました。地域の方への声掛けや見守りのほか、おやこクラブへの支援、保育園・幼稚園との交流を通じて、地域全体で子育てを支え合う輪を広げる思いで現在も活動を続けています。

取組をどのように展開しましたか？

少子化が進み地域での子育て支援が求められる中、市からの委託を受け、生後4か月までの赤ちゃんがいる家庭を訪問する「こんにちは赤ちゃん事業」を平成20年から実施しています。研修や学習を重ね、訪問先ではお母さんの声に耳を傾け、不安や悩みに寄り添う支援を進めています。

今後の展望

これからも、人と人とのつながりを大切に、地域の方々をつなぐ橋渡し役となり、ふれあいの輪を広げて、安心して子育てできる地域づくりを進めていきます。また、愛育委員協議会が作成し全戸配布している情報誌aiを通じて、地域の方々に愛育活動や健康情報を発信していきます。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者　**永田 忠**

主要経歴　小児科専門医、
日本小児科学会認定専門医

［主要経歴までの略歴］

昭和52年　山口大学医学部医学科　卒業
　　神戸大学医学部小児科学教室　入局
昭和55年　国家公務員等共済組合連合会呉共済病院 勤務
昭和63年　医療法人社団光仁会梶川病院　勤務
平成5年　ながたこどもクリニック　開業

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

私は、在胎8か月で小さく生まれ、授乳もうまくできず、大量皮下注射で何とか成長したのことです。当時は、保育器もなく電灯で保温しながら育ったようです。そのような経緯から小児科を志し、神戸大学小児科に入局し、新生児医療と小児医療を研鑽しました。

取組をどのように展開しましたか？

小児科専門医として、親子交流の場と児童生徒の生活習慣病の取り組みの立ち上げ、また、広島市医師会学校医委員会委員、広島市学校保健会の各役職、佐伯区常設親子交流の場運営協議会会長等の多数の活動を通じ、学校保健の向上や小児救急医療体制の構築維持・発展に務めています。

今後の展望

自院での診療業務に留まらず、継続して広島市の各種予防接種・健診事業、土・日・祝日及び盆前後並びに年末年始の救急医療、園医・学校医を務めることにより、今まで以上に、学校保健の向上や小児救急医療体制の構築維持・発展に貢献していきたいと考えております。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者　**松永 伸二**

主要経歴　まつなが小児科医院　小児科医

［主要経歴までの略歴］

1975年　久留米大学医学部卒業、
　　同大学病院等の小児科勤務
1986年　まつなが小児科医院開設

宗像医師会理事等要職を通算10年間、宗像地区急患センター医療運営協議会委員を20年間（内2年は委員長）務めた。現在に至るまで福津市教育支援委員会等各種委員会委員を歴任。

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

大学病院等の勤務医の時期に主として循環器疾患、急性疾患、小児救急医療に携わってきた。開業後、所属する宗像医師会の当時、先進的な救急医療（365日年中無休体制の宗像地区急患センター）に接し、その維持・発展と病児保育等子育て支援の必要性を痛感した。

取組をどのように展開しましたか？

学校医歴は37年を超え、現在9園の園医を務めている。365日年中無休体制で宗像地区の救急医療を支える宗像地区急患センター小児科に36年間出務し、同センター医療運営協議会委員及び委員長としても尽力してきた。2004年県内でも先駆けと言える病児保育施設を開設した。

今後の展望

現在、診療所は息子が継承しているが、これからも学校医・園医を出来うる限りは永く務め、地域の子どもたちの育ち、健康にかかわってきた経験を活かして、地域の人たちの相談相手となり、共に子どもたちを見守っていきたい。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者　**松井 須賀子**

主要経歴　母子保健推進員

［主要経歴までの略歴］

昭和61年4月～現在　光市母子保健推進員
平成5年4月～平成7年3月
　　光市母子保健推進協議会理事
平成29年4月～令和2年3月
　　光市母子保健推進協議会副会長

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

前任者の退任に伴い、母子保健推進員の先輩から声をかけていただき、「若いお母さんと赤ちゃんを応援したい」という思いで活動を開始しました。当時は家庭訪問をすると玄関先までお子さんを連れて出てくれる方が多く、お子さんの成長が楽しみでした。

取組をどのように展開しましたか？

妊娠期から乳幼児期のふしめごとに家庭訪問を行い、お母さんたちにお声がけし、心配なことがあれば担当保健師につなぎました。また、育児相談や健診などのお手伝いや母推主催の地域での輪づくり活動（クリスマス会）を通して母親同士の交流のサポートを行いました。

今後の展望

こどもの数が減ったり、共働きの家庭が増えて、訪問してもなかなか出会えなかったり、催しに参加される方も少なくなり、対面するのが難しくなったと感じています。ですが、どんなに時代が変わっても、母推として子育て家庭に寄り添い、笑顔で温かさを届けていきたいと思います。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者　**黒川 美知子**

主要経歴　福岡県小児科医会会長

［主要経歴までの略歴］

1979年　九州大学医学部卒業
　　九州大学医学部付属病院小児科入局
2001年　くろかわみちこ小児科クリニックを開業
2015年　福岡市医師会常任理事
2019年　福岡地区小児科医会会長
2024年　福岡県小児科医会会長

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

小児科開業医として地域に根差した、保護者の目線に立った医療・活動を行いたいと思っていた。
核家族化が進む現代において、孤立しやすい母子に寄り添う地域活動が必要と考えられ、そのために小児科医として、また小児科医会として取り組めることを考えた。

取組をどのように展開しましたか？

出産前後子育て支援事業の再活性化を図り、プレママ・プレパパ子育てセミナーを立ち上げ、10年間年1回開催した。また、福岡市で集団健診で実施されていた4カ月児健診の個別健診化を保護者に行ったアンケート結果を基に行政と折衝し実現した。

今後の展望

妊娠期からの切れ目ない支援が行えるように、小児科、産婦人科、精神科と行政がタイアップして虐待防止につながるような活動がしていけたらと考えている。その為には各地区での顔の見える関係作りが必要であり、各区における子育て支援ネットワーク会議の開催を推進していきたい。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **南 武嗣**

主要経歴 小児科医　医師

［主要経歴までの略歴］

1980年
九州大学医学部卒業、九州大学小児科入局。ベルギー、ルーバン大学留学。九州大学小児科助手、講師。

1996年
みなみクリニック開設。鹿児島市･鹿児島県小児科医会長を歴任。

2023年
閉院後、やまびこ医療福祉センターに勤務。

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

2006年ごろ、全国的に小児にヒブ髄膜炎や肺炎球菌髄膜炎が多発し、死亡や後遺症も見られ、子ども達にとって深刻な脅威であった。また発症が急で診断が難しく、小児科医にも負担が大きかった。海外で普及し始めたワクチン導入の必要性を強く感じた。

取組をどのように展開しましたか？

全国に先駆け、鹿児島大学小児科と県小児科医会で、小児細菌性髄膜炎の調査「Kagoshima Study」開始。鹿児島市に働きかけ任意接種のヒブワクチン補助を日本で初めて実現。2008年12月の発売直後から接種を広く推進。その後の全国的な定期接種の先駆けとなる。

今後の展望

「Kagoshima Study」の髄膜炎ワクチン効果を学会などで発表。さらに重症胃腸炎のロタウイルス感染症の調査やワクチン補助を実現。ヒブ、肺炎球菌、ロタワクチンの全国的な定期接種化に貢献。今後は広報活動を通じ接種率維持に努め、発達障害診療にも力を注ぎたい。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **前田 タエ子**

主要経歴 助産師

［主要経歴までの略歴］

助産師、看護師として医療機関（県立病院）に勤務

2009年にまえだ助産所を開業し、新生児･妊産婦訪問事業、育児支援家庭訪問事業に従事

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

総合･精神科病院勤務を経て、地域母子保健への貢献を決意。母子の現実に寄り添い、個別化された保健支援の必要性を認識した。母親が不安なく、楽しく子育てできる環境の実現こそ、助産師としての揺るぎない使命であると考え、活動を開始した。

取組をどのように展開しましたか？

新生児･妊産婦訪問事業に従事し、母子とその家族に寄り添い、傾聴と共感に基づく個別支援を実施。
育児不安の軽減と虐待防止に努めた。保健センター等との多職種連携を確立し、家族のニーズに合わせた包括的かつ継続的な支援を届けている。

今後の展望

今後一層複雑化する母子環境に対応するため、支援の質を高めるため弛まぬ研鑽を継続する。より深い専門知識と幅広い知見を獲得し、個々の母親の心に寄り添う支援を実践。子育てに喜びを感じてもらうことが次世代育成の礎であり、これを自身の成長と地域貢献としていく。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **運天 啓一**

主要経歴 医師

［主要経歴までの略歴］

1974年　名古屋大学医学部卒業、名古屋掖済会病院勤務
1979年　沖縄県立名護病院勤務
1981年　糸数産婦人科病院勤務
1984年　那覇高等学校衛生看護科講師
1985年　運天産婦人科医院開設（現在に至る）
1993年　北部地区医師会北部看護学校母性看護学講師

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

40年間の長期にわたり北部地区は離島、僻地をかかえハイリスク妊娠、出産例が多く未熟児の出生率が高い地域でした。加えて産婦人科医師不足で中核病院の産婦人科が2度にわたり休止になりました。私の出身地でもあり、医師一人で悪銭苦闘して頑張ってきました。

取組をどのように展開しましたか？

迅速な母体搬送と現場での未熟児出生率を下げる為、高次病院と密に連携し、瞬時に対応できるよう搬送マニュアルを構築しました。その結果、幸い、当院では母体死亡は無く、地域の安全な周産期医療が展開できたと自負しています。

今後の展望

学生時代から産婦人科、内科、小児科を志望していました。4年前に分娩管理は終了したため、現在は婦人科･内科･小児科を標榜しています。当院で出生した小児、出産･育児を終了したかつての妊産婦の方々を気を引き締めながら診療しており、これからも継続していきたい所存です。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **島袋 富美子**

主要経歴 沖縄県保健師･
沖縄県小児保健協会理事

［主要経歴までの略歴］

1982年、県保健師として保健所および県行政において母子保健業務に従事。県庁在職中、「妊娠期における保健指導マニュアル」を作成し、妊婦指導の充実と関係機関連携の整備を推進。委員会を設立し、「周産期保健医療計画」の策定を主導し、関係機関への周知を図った。

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

低出生体重児の出生率の高さや妊娠届け出の遅れ、母子健康手帳の交付の遅れ、さらに10代出産の増加など、県の母子保健行政には多くの課題が山積していた。そのため、どの地域でも安心して安全に妊娠･出産できる体制を整備する必要があった。

取組をどのように展開しましたか？

平成20年、「安心･安全な妊娠出産等整備事業」として妊産婦の実態調査を実施し、その結果をもとに保健指導マニュアルを作成。関係者向け研修会を開催した。県内産科･小児科医師･助産師会代表等で構成する委員会で周産期保健医療計画を策定し、具体的な推進体制を整備した。

今後の展望

少子化や高齢化、核家族化が進展する中、地域における母子保健の向上や子育て支援の充実に向け、行政･小児保健関係団体･沖縄県女性の翼が実施している女性支援･その他関係団体･地域住民と緊密に連携し、実効性のある具体的な取り組みを継続的に推進していきたいと考えている。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **小橋 孝介**

主要経歴 **鴨川市立国保病院　病院長**

［主要経歴までの略歴］

医師　公認心理師

2005年に自治医科大学医学部卒業、総合病院国保旭中央病院、国立精神神経医療研究センター病院を経て2016年より松戸市立総合医療センター医長、2019年同副部長、2022年より鴨川市立国保病院医療参事を経て病院長となる。

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

医師になり、総合病院国保旭中央病院における初期研修の中で経験した、子ども虐待による死亡事例をきっかけに、地域と連携した医療機関における子ども虐待対応における様々な課題に直面したことから、当時の指導医と共に病院内に子ども虐待対応チームを立ち上げたこと。

取組をどのように展開しましたか？

松戸市立総合医療センターにおいて子ども虐待対応チームを立ち上げ、さらに関係機関連携を推進するため千葉県下の中核病院や児童相談所とのネットワークづくり、千葉県児童虐待防止医療ネットワーク事業の構築、子ども虐待に関わる専門職の教育プログラムの構築等に関わった。

今後の展望

医療機関における子ども虐待対応だけでなく、地域の中で多機関多職種が連携して子どもと家族を支え、子ども虐待のない世界を目指していきたい。そして、全ての国民が逆境的小児期体験の有無にかかわらず保護的な体験を積み重ねられるような社会を創りたい。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **蛯名 勝之**

主要経歴 **歯科医師**
(日本歯科医師会地域保健委員会副委員長)

［主要経歴までの略歴］

1998年　エビナ歯科医院開設
2007年　新宿区立戸塚第一小学校歯科校医
2011年　東京都新宿区歯科医師会公衆衛生担当理事
2015年　新宿区健康つくり行動計画推進協議会委員
2019年　東京都新宿区歯科医師会会長
2019年　東京都地域医療構想調整会議委員

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

歯科医院開業以来、母子保健、学校歯科をはじめとした歯科口腔保健の公共事業に関与する中で、幼弱永久歯に対するむし歯予防事業拡大の必要性や幼少期から学童期にかけての咬合に伴う体幹機能障害や口腔機能の発達不全に接し、問題意識があった。

取組をどのように展開しましたか？

幼弱永久歯を保護するため、従来から行っていた乳幼児対象のむし歯予防事業の対象年齢の拡大を行政とともに行った。また体幹機能障害や口腔機能発達不全に対しては摂食嚥下機能の正しい獲得のため、行政と作った高齢者向け摂食嚥下障害のための教材を学童に応用し活用した。

今後の展望

現在行っているむし歯予防事業を学童期全体にわたり展開し、歯牙交換期の幼弱永久歯の保護活動を拡大していきたい。また体幹機能障害や口腔発達不全に対しては、学童期での活動を継続していくとともに乳幼児期からの正しい摂食嚥下機能の獲得のために活動していく。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **長岡 美樹**

主要経歴 **産婦人科医師**

［主要経歴までの略歴］

1990年　医師免許取得。大学関連病院勤務。
2011年　医療法人社団ひつじ会宮益坂メリーレディースクリニック開業。
2015年　東京産婦人科医会学校保健委員として東京都公立中学校高等学校での性教育に従事。
2021年　東京産婦人科医会学校保健理事就任し現在に至る。

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

産婦人科医師となり、診療する中で悲しい思いをする婦女子が多いことに心を痛めてきた。健やかに暮らすためには早い段階から正しい知識が必要と考え、学校において性の健康教育をしなければならないと考えた。産婦人科医師として教育活動も大事な仕事である。

取組をどのように展開しましたか？

これまでも独自に活動もしてきたが、学校での活動には教育委員会との協力が不可欠であった。幸い東京都教育庁も性の健康教育の必要性を認めており、協力体制が構築できた。また、多くの産婦人科医の協力も得られ共に活動でき成果を挙げられている。

今後の展望

東京都は人口も多くまだまだ十分な活動とは言えない。草の根からの歩みだが、継続していくことが大事と考え、行政とのさらなる協力関係の強化、協力産婦人科医師の教育、増員を進めていきたい。情熱を失うことなく子供たちの健やかな未来のため活動していく所存である。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 **赤尾 さく美**

主要経歴 **助産師**
(一社)ベアホープ 理事、
(一社)全国妊娠SOSネットワーク理事

［主要経歴までの略歴］

1994年～　みなと医療生協協立総合病院
2003年～　国際NGOワーカー
2008年～　名古屋大学医学部保健学科看護学専攻 助教
2014年～　ベアホープ設立、理事
2014～2017年　日本財団　福祉特別事業チーム
2015年～　全国妊娠SOSネットワーク設立、理事

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

適切な医療が届かない人たちがこの世界にはたくさんいて、日本にも困難を抱えた妊産婦、家庭で暮らせない子どもたちがたくさんいる。自分が持つスキルが役に立つのであれば、愛と専門性を兼ね備えた組織を通して、社会を変えていく働きを担いたいと思った。

取組をどのように展開しましたか？

様々な困難を抱える妊産婦の背景･ニーズに応じた相談支援、子どもの家庭養育の保障のための特別養子縁組、養子縁組親子への長期支援、医療･保健･福祉分野の専門職への実践的な研修の提供、事業立ち上げのコンサルティング、周知･啓発、政策提言等をチームで展開している。

今後の展望

様々な困難を抱える妊産婦の相談の入口から自立まで、その子どもたちの永続的な家庭養育の保障まで、全国どこでも同等に、温かく柔軟で建設的な支援が展開されるよう、関わる専門職の方々と一緒に連携支援体制を整え、社会を変えていく一助を担いたい。

令和７年度

健やか親子21内閣府特命担当大臣表彰

功労者表彰［団体］

功労者表彰　受賞者の声

受賞者　**特定非営利活動法人 子育て支援ネットワーク とくしま**

担当者　松﨑 美穂子

［略歴］

1993年　「徳島子育てネットワークくすのき」発足

2002年　NPO法人子育て支援ネットワークとくしま設立

2003年　子育て支援施設「子育てほっとスペースすきっぷ」開設（2023年4月から「子育て安心ステーションすきっぷ」に名称変更）

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

当事者目線での「あったらいいな」の思いを実現するため、乳幼児の子どもをもつ母親たちにより「子育てネットワークとくしま」を立ち上げ、四国初の地域に密着した徳島ならではの子育て情報誌の発行や乳幼児の親子の居場所づくりを始めた。

取組をどのように展開しましたか？

2002年NPO法人の認証を受け、翌年「子育てほっとスペースすきっぷ」を開設（徳島市より受託）。子育て支援の拠点となり、孤立を感じやすい環境にある子育て世代の支援を積極的に行った。また、子育て世代と地域をつなぐ役割を担い、地域の活性化を図った。

今後の展望

県内の子育て支援施設の連携やネットワークの強化を図り、妊婦からの切れ目のない支援の充実ときめ細やかな支援に取り組みたい。また、シニア子育てサポーターの発足に注力し、高齢者の生きがいや健康づくりの推進、子育て世代への貢献につながるよう尽力していきたい。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者　**杵築市山香愛育班**

担当者　田中 美智代

［略歴］

昭和52年8月5日、山香町山浦地区愛育班が発足。

平成17年の市町村合併を機に、名称を「杵築市山香愛育班」に変更しました。

育児サークルへの協力や絵本の寄贈、乳児健診での絵本の読み聞かせなどの活動を経て、現在は子育て支援センターの行事協力を行っています。

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

「地域のみなさんと健康づくり」を合言葉に、健康で住みよい「まちづくり」を目指して取り組みを始めました。地域の高齢化が進み、現在は高齢者を中心とした活動になっていますが、子育て支援センターの行事協力など、子育て支援は継続しています。

取組をどのように展開しましたか？

育児サークルの協力から始まり、絵本の寄贈や乳児健診での絵本の読み聞かせ、夏休み公民館学校の協力(小学生の見守り･おやつ作り)など、その時代のニーズに応じた活動を行ってきました。現在は子育て支援センターの親子と一緒に料理をしながら交流しています。

今後の展望

地域の少子高齢化が進み、現在は声かけ･見守り訪問活動は高齢者を中心としたものになっていますが、子育て支援の機会を大切にし、今後も子育て支援センターの行事協力やこども園等における地域健康交流会等の活動を、班員全員で無理なく楽しんで行っていきます。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 羽生市母子愛育会連合会

担当者 会長　齋藤 勢津世

［略歴］

昭和29年の町村合併に伴い9支部からなる連合体として結成されました。当時は乳幼児の栄養改善のため脱脂粉乳配給協力、昭和40年代は寝たきり高齢者の訪問活動などを実施。これまで社会問題に対し行政と協力しながら地域の方々の健康のために活動してきました。

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

はじめは輪番で愛育班員として役割を任されましたが、地域の子供たちの健やかな成長を見守れることは嬉しいことです。世代間交流などを通して地域の大人が協力して事業に取り組むことで、つながりが継承されるのも誇らしいと考えています。

取組をどのように展開しましたか？

結成当初は農協婦人部の一部として組織されていた地域もありましたが、その後自治会において字単位で班員を選出し輪番で交代するなどの方法で存続してきました。事務局を市保健師が担い、市の健康課題などを連合会と市とで話し合い、協力して事業を展開してきました。

今後の展望

各支部長は長年に渡り役職を担っていますが後継者不足の課題があります。地域の関係性の希薄化から活動が困難な時もあります。羽生市は少子高齢化がますます進んで行くことが見込まれますので、地区組織としてのあり方を検討しつつ、地域のために貢献を続けていきたいと思います。

功労者表彰　受賞者の声

受賞者 点字印刷・出版　雑草の会

担当者 内田 邦子

［略歴］

1980年12月20日　設立

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

点字母子手帳ができる前は、視覚障害のあるお母さんが周囲に朗読や点訳を頼んで情報を得ていました。1990年ごろ厚生労働省との懇談で「母子手帳を点字でほしい」という声があり、その実現を願ったことが取組のきっかけです。

取組をどのように展開しましたか？

厚労省との懇談後、障害者年推進会議で要望を伝え、国会でも取り上げられました。政府が制作に取り組むと表明し、国の事業として実現。以来、家族計画協会のもとで改訂にあわせ点字版の制作を続けています。

今後の展望

視覚障害のある方が情報から取り残されないよう、点字だけでなく音声やデジタルなど多様な方法で情報提供を進めたい。現在の「母子健康手帳　点字版」を正式に「点字母子手帳」と位置づけられるよう今後も働きかけていきます。

令和７年度

健やか親子21内閣府特命担当大臣表彰

健やか親子表彰

健やか親子表彰 —最優秀賞—

社会福祉法人麦の子会

共に生きる～社会福祉法人麦の子会の実践～

活動の目的

児童発達支援センターを中心に、50以上の事業所が1km圏内に点在しており、妊娠期・乳幼児期・学齢期・成人期・高齢者の暮らしの場まで、ライフステージを通じた切れ目のない支援をおこなっています。
また、こどもと家族が孤立しないように心理支援・家族支援を大切にし、グループカウンセリング、個別カウンセリング、自助グループなど、養育者同士も繋がって、こどもを大切にする文化が創られてきました。

具体的な取組内容

妊娠期から高齢者の方まで切れ目のない支援をおこなっています。

ひとりのこどもを支えるために、発達支援だけではなく、養育者の心理支援や家族支援もとても大切にしています。グループカウンセリングや、自助グループ、ペアレントトレーニング、居場所支援事業、24時間対応の緊急携帯電話を通して、養育者の虐待予防や孤立防止のために役立っています。

成果としては、現在750名以上利用者さんが登録をしており、幼児期から継続して支援を受けてきたこども達やその保護者の方々が職員やパートとして就労するなど、「支援される側から支援する側」への循環が生まれています。
にんしんSOSほっかいどうサポートセンターでは、令和3年に開設以来56人(令和7年10月末時点)の赤ちゃんが誕生し、昨年度は予期せぬ妊娠に直面して困っている妊婦さんなどから延べ4000件/年を超える相談を受けました。特に、居所のリリアでは若年層や経済的困窮にある女性が退去後も安心して子育てができるように、地域の関係機関と連携し安心して子育てできる環境を整えています。その他にも、昨年6月にはNHKのETV特集でもむぎのこでの取組を取り上げていただきました。

今後も支援の質の向上に努め、現場での実践をもとに行政や関係機関と連携し、障害の有無にかかわらずすべてのこどもと家族が共に安心して暮らせるインクルーシブな地域づくりをこれからも推進していきたいと思っております。

健やか親子表彰　最優秀賞

受賞者の声　担当者：理事長 北川 聡子

取組を始めた経緯は何ですか？

若い日に会った自閉症の少年は、他害や自傷が激しかったが、その眼差しは純粋で賢く、私に対して「信頼できる人なのか」と投げかけているようでした。こども達の未来のために、幼少時から子どものWell-beingを高める発達支援が必要と思い、むぎのこを設立しました。

具体的にどのように取組の普及を工夫しましたか？

むぎのこのミッション『ひとりのこどもを育てるには、村中の大人の知恵と力と愛が必要』を具現化するためにお母さんやこどもの困り感に寄り添い、心理支援・家族支援を行い、保護者が繋がって協力し合うよう職員と共に子どものWell-beingの為に一つ一つ取り組みました。

取り組む中で苦労したこと、大変だったことは？

大学卒業と同時に仲間と共に教会を間借りしてむぎのこを始めました。若かった事もあり、お金もスキルもなく、お母さん達から心配された事もありました。そこでお母さん達と北欧へ視察に行き、進んだ福祉を学び、当時のオスロ市長さんに励まされ、お母さん達と共に作り上げてきました。

取り組む中で苦労したこと、大変だったことに対して、どのように乗り越えたか

お母さんの心理支援のために、職員やお母さん職員がアメリカの大学院で専門的に学び、個別カウンセリング・グループカウンセリング・トラウマワーク・ピアカウンセリングを取り入れました。そして、家族支援については、ショートステイ・地域支援について学び、取り入れました。

今後の展望・課題は？

こどもや家族の思いに耳を傾け、共に生きる支援を大切にしています。障害のある子や、社会的養護の必要な子をはじめすべてのこども一人ひとりの違いが尊重され、誰もが孤立せず安心して暮らせる社会をめざし、ソーシャルインクルージョンの地域作りを関係者と共に進めていきます。

評価委員からのコメント

妊娠期・乳幼児期・学齢期・成人期・高齢期まで、切れ目のない支援を続けてこられたこと、そして利用される方お一人お一人のニーズに丁寧に寄り添ってこられた積み重ねにより、現在のような層の厚い大きなサポート団体へと発展されたのだと拝察いたします。支援される側がやがて支援する側へとつながっていく良い循環が生まれていることも含め、長年の継続だけではなく、関わってこられた皆様お一人お一人のお力が結集した結果であると感じております。
現代はますます生きづらさを抱える方が増える難しい社会となっており、今後も様々な支援を必要とされる方は一層増えてくるものと思います。そのような中で、貴会の活動は今後ますます重要性を増していくものと存じます。今後も、将来にわたり一層のご活躍と多彩な活動の広がりが期待されます。会のさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。

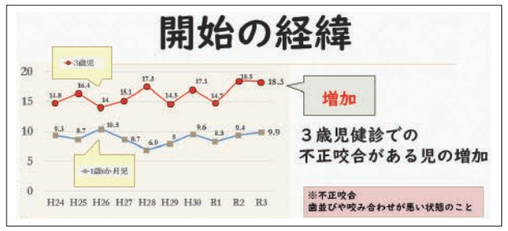
健やか親子21推進本部副会長／日本医科大学付属病院 女性診療科・産科　**川端 伊久乃**

健やか親子表彰 —自治体部門　優秀賞—

愛知県大府市

10か月児食べる機能健診

取組の背景



大府市で10か月児食べる機能健診を始めるに至ったきっかけは、3歳児の不正咬合が増えている現状にありました。平成24年度から令和3年度の1歳6か月児健診、3歳児健診時の不正咬合がある児の割合を調査したところ、微増ではありますが、3歳で不正咬合の割合が増加していることが分かりました。

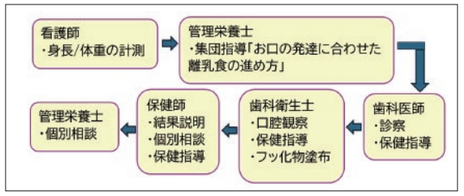
乳児期に適切な口腔機能の発達を獲得することはとても重要で、そのためには口腔機能の発達に応じた離乳食を与えることが必要です。行政の離乳食支援は「授乳・離乳の支援ガイド(2019, 厚生労働省)」に沿って実施しています。ですが、実際に保護者が乳児の身体発達や口腔機能の発達を適正に判断しながら離乳食を進めていくことは難易度が高く、月齢に沿って離乳食を進めてしまっている保護者が多いのが現状です。

これらの経緯から適切な口腔機能の獲得を促し、乳児の歯と口腔の成長発達に応じた離乳食の与え方について支援することを目的とした健診が必要という結論に至りました。大府市歯科医師会にも協力を仰ぎ、検討を重ねた結果、離乳食の後期頃となる10か月児全てを対象に本健診を実施することとなりました。

具体的な取組内容

【実施方法】

本健診は法定の健診ではなく、大府市独自の健診です。
市内の対象児に郵送で案内を送付し、月に2～3回の実施、1回の健診で約30人前後が受診します。
従事するスタッフは、歯科医師1名、歯科衛生士5名、管理栄養士3名、保健師5名、看護師1名です。



▲健診の流れ

【結果】

▲歯科医師による口腔観察

令和6年度の受診率は94.0%という結果でした。法定の健診ではないにも関わらずこのような高い受診率は、近年着目されつつある口腔機能の発達に対する意識の現れであると考えられます。
口腔機能の評価については、「舌の動きに加え、唇の形や身体の発達等、様々な要因を考慮して総合的に評価する必要がある」と大府市歯科医師会より助言を得ています。本健診では、同じ月齢でも成長に個人差があり、個々の口腔機能の評価に合わせた離乳食支援を行っていくことの必要性と、現段階から次の段階へ発達を促していくことの重要性を再実感しました。
そのため、口腔機能と離乳食がマッチしているかどうかの健診結果を伝えるのではなく、離乳食の形態や正しい姿勢、食具等についての情報提供を行いながら、一方的な指導ではなく保護者と乳児の口腔機能や食について考えを共有することを心掛けています。

【今後の展開】

本健診を通して、乳児の口腔機能の発達に合わせた離乳食の啓発に加え、我々専門職の知識向上に繋がっています。現在は健診後のフォロー体制の見直しを課題の一つに挙げています。本健診は乳児の身体発育や歯の萌出状況、口腔機能の発達、離乳食の形態、育児状況などを包括的にみることが重要であるため、多職種連携が必須です。中でも口腔機能評価は歯科医師による診察が不可欠です。現在、大府市歯科医師会の先生方と保健センター職員が一丸となって、健診後のフォロー体制について検討中です。日々意見を交わしながら、市全体で健診のその後まで手厚くサポートする流れを作りあげています。

健やか親子表彰　優秀賞

受賞者の声　担当者：鈴木美弥、前田さと子

取組を始めた経緯は何ですか？

不正咬合の児が増加している・離乳食の与え方につまづきがある・コロナ禍で相談の機会が減少したなど様々な課題がありました。口腔発達の状況や離乳食の進み具合を確認し、何か支援に繋げ解決できればと考え10か月児食べる機能健診が始まりました。

具体的にどのように取組の普及を工夫しましたか？

10か月児食べる機能健診開始当初は、市のウェブサイトや広報で周知し、新聞やテレビでも取り上げられました。現在では離乳食教室や妊娠期の両親学級などの事業でも周知をしています。今後も様々な場で、この取組を周知していきたいと思っています。

取り組む中で苦労したこと、大変だったことは？

10か月児食べる機能健診は、歯が生えているか・離乳食は何を与えているかを診たり聞いたりするだけではなく、その先の支援までを目的としています。中でも離乳食の形態に関しては保育園などの食事にも関係してくるため、園の保育士や看護師とも連携を取る必要がありました。

取り組む中で苦労したこと、大変だったことに対して、どのように乗り越えたか

まず保育園へ健診についての説明を実施しました。保護者の中には、離乳食形態を口腔機能の発達に合わせることに戸惑う方もいます。そのような場合に、保健センターと保育園で連携して対応していく必要性を共有できたことで、健診のその先の支援に一歩近づきました。

今後の展望・課題は？

現在、健診後は必要に応じて保健センター職員でフォローを実施していますが、今後は職能団体(市内歯科医師会等)も絡めたフォロー体制を構築していきたいと考えています。日々試行錯誤を重ね、市民に寄り添った健診を目指し頑張っていきます。

評価委員からのコメント

この度は優秀賞受賞を誠におめでとうございます。歯科医師会等多くの関係者とともに独自性の高い事業を展開されていることに敬意を表します。健診後のフォロー体制を構築されることで今後のさらなる発展を期待しております。

国立保健医療科学院 次長　**上原 里程**

ご受賞、誠におめでとうございます。本取り組みは、課題を的確に把握し、市の専門職の方々が一丸となって具体的なアクションへと結びつけた、非常に優れた事例です。口腔機能発達への意識を高め、専門職の知識向上を促進するこの取り組みが、今後更に発展し、全国へ広がっていくことを心より期待しております。

KODOMOLOGY株式会社 価値開発本部長　**岡田 優子**

健やか親子表彰「自治体部門優秀賞」のご受賞にあたり、心よりお祝い申し上げます。18歳以下の口腔機能発達不全に係る管理は普及途上と言える中、大府市が専門職・多職種との連携で、意識啓発を行いつつ独自健診を進め、さらには今後への課題分析も行っている取り組みに感銘を受けました。今後の広がりに期待いたします。

連合　総合政策推進局生活福祉局長　**小林 司**

受賞おめでとうございます。ポピュレーションアプローチに基づく本事業は、乳児期の口腔機能に焦点をあてたライフコースアプローチ、多機関・多職種連携による実施などの特徴があります。今後の展開に挙げられた改善点やそれらへの対策は、PDCAサイクルに基づいた事業運営を反映しており、さらなる発展も期待できます。

実践女子大学 生活科学部 食生活科学科　**佐々木 渓円**

全国的にも珍しい10か月児の食べる機能に着目した健診ですが、受診率の高さからもニーズを捉えていることがよくわかります。子どもたちの現状に着目することで始まった全国各地に広がるべき取り組みです。ご受賞、おめでとうございます！

埼玉医科大学　**高橋 幸子**

健やか親子表彰 —団体部門　優秀賞—

豊田市男性保育師連盟

パパが子育てを楽しめば家族が笑顔になる!
～乳幼児期のパパ達と歩んだ成長と次世代へ紡ぐ物語～

取組の目的・背景

活動の目的は、『父親の育児支援』からの『子どもの笑顔を増やす』です。対象は0～6歳の子どもを持つ父子です。
2005年の活動当時は、“イクメンブーム”が来る前の活動でした。(団体設立からの活動は2006年)
世の中はママが子育てをすることがまだ主流で、たくさんのママ講座が溢れていました。そして、父親の育児講座はどこにも存在しませんでした。

そんな中、「パパ達が子育てに積極的に関わり、パパが子育て楽しめば家族が笑顔になるのではないか?」と考え、父親の育児支援に特化した自主講座から開始しました。男性、父親からアプローチしていく家族のカタチを常に意識していました。

具体的な取組内容

活動の実施当初は、自主活動でした。市民活動センターへ団体の登録を行い、活動場所を作りました。私たちは保育士でしたが、活動当時は行政の理解が得られず職場を使うことができませんでした。

そんな中、「男性保育者×パパ」の活動が徐々に地域に浸透していき、行政の男女共同参画センターや自治体の交流館から講師として招かれるようになり、活動の幅が一気に広がっていきました。

さらに、2008年に愛知県の委託事業として選定され、私たちの看板イベントである『子育て戦隊パパレンジャー』が誕生しました(豊田市の父子100組以上が参加)。以後、豊田市で大人気のパパ講座として市の後援も頂き、現在も続いています(コロナ禍を除く)。

この子育て戦隊パパレンジャーの事業は、2008年に単発講座からスタートしました。2010年に連続性のある事業へと変化させました。60組の父親(現在は50組の制限)が一年を通し、交流をし、横のつながりを作っていけるというものです。パパレンジャーイベントは全5回となっていますが、テーマを分けています。第1回目は『親子遊び』、第2回目は『水遊び』第3回目は『運動会』、第4回目が『芸術活動』、第5回目はパパ達が主催する『男祭り』です。

その成果もあり、パパレンジャーを卒業したパパ達から『男塾』というチームが生まれ、活動が続いています。他にも、豊田市の祭りである豊田おいでん祭りに『子育て戦隊パパレンジャー』として、卒業生の父子が毎年参加を続けています。どれも参加者だったパパ達の自主グループになっています。

現在、豊田市男性保育師連盟は、パパ講座の参加者のパパ達がメンバーに加わり、多様なメンバー構成となっています。先輩パパ達が現代のパパ達へ、『子育ての楽しさ』を伝える。そんな流れが当たり前のようにできています。

今後の展開としては、まずは『後進の育成』を第一に考えてすでに動いています。いつも地域に根ざした『持続可能な活動』であり続けることが大切だと考えています。

▲豊田市の子育て支援センターからの依頼で毎年行っている未就園(0～2歳児)の父子が対象の講座。豊田市の子育て支援センターの大きないくつかの拠点で毎年行っている。

▲子育て戦隊パパレンジャー 2回目『パパラトゥーン』の様子。全員が白シャツを着て、チーム戦に別れて対決。季節ならで楽しめる内容も魅力の一つである。

健やか親子表彰　優秀賞

受賞者の声　担当者:末広 俊一

取組を始めた経緯は何ですか?

初めはマイノリティーで、職場で自分らしさが発揮できない男性保育士の自己研鑽の活動でした。当時、男性保育士が職場ではなかなかできなかったギター、ブレイクダンス、空手等を、父親の育児支援という社会貢献を通じて思いきり楽しんで活動をしていました。

具体的にどのように取組の普及を工夫しましたか?

『男性保育士』×『パパ』は目新しく互いにマッチングするキーワードでした。その中に「家庭でもできる簡単親子遊び」「保育の教材を使った子どもに親しみのある遊び」「男ならではのダイナミックな遊び」を意図的に入れ込んでいたのも工夫した点です。

取り組む中で苦労したこと、大変だったことは?

行政の理解が得られず、『父親の育児支援』の活動自体に否定的だったことです。自分たちの職場で活動をすることもできませんでした。また、当時は父親の育児は認知度が低く、チラシの配布等も園で許可がおりず講座の集客に苦労しました。

取り組む中で苦労したこと、大変だったことに対して、どのように乗り越えたか

同じ行政の男女共同参画センターがバックアップしてくれるようになりました。そこから、講師として地域の交流館や子育て支援センターから招かれるようになり、活動が飛躍的に広がりました。腰の重たいパパを、ママ達が無理やり申込み参加させるのが当時のよく見られる光景でした。

今後の展望・課題は?

まずは『後進の育成』を第一に考えて既に動いています。当時のメンバーはほとんどが40代に入り、現在は20代30代のメンバーへバトンを繋いでいます。そして、この活動が地域に根ざした『持続可能な活動』であり続けるための仕組みを構築していきます。

評価委員からのコメント

男性保育者同士の活動が、行政や地域子育て支援拠点でのパパ講座に発展、男性による男性のための循環型パパ支援の活動に広がっていることに敬意を表します。何よりもパパ自身が楽しみ、こどもの笑顔が広がる取組であり、男性育休が40%を超える時代のなか、さらに保育士の専門性を活かした活動に期待を寄せています。

NPO法人 子育てひろば全国連絡協議会理事長　**奥山 千鶴子**

ご受賞おめでとうございます。ご自身の経験をもとに父親への育児支援に注力を注ぎ、活動されています。子育て世代の方々が中心になって保育の視点で子育ての楽しさを伝え、信頼と実績を得ながら継続的に活動できるように後進の育成も行っており、とても素晴らしい取り組みです。今後の広がりに期待しております。

成城木下病院　師長　**落合 直美**

男性保育士ならではの視点で父親の育児参加を自然に促し、家族の笑顔を広げてきた点が素晴らしいです。豊田市から県内外へと広がる長年にわたる継続的な活動は、次世代の父親たちへの良い手本となっており、今後のさらなる発展を期待します。

帝京大学医学部小児科　主任教授　**三牧 正和**

受賞おめでとうございます!「パパ達が子育てに積極的に関わり、パパが子育て楽しめば家族が笑顔になるのではないか?」といった考えから始まり、父親たちの取り組む育児支援活動がとても魅力的です。父親のネットワークがつながり、育児だけでなく地域の取り組みとしても評価できる素晴らしい活動と思いました。

北海道医療大学 心理科学部 教授　**柳生 一自**

健やか親子表彰 —企業部門　優秀賞—

三起商行株式会社（ミキハウス）

ミキハウス プレママ・プレパパセミナー

取組の目的・背景

既に10年以上取り組んでいますが、核家族が増え、周りに相談できる人がいないケースも多く、1人で抱える方が増えているように感じています。初めてご出産を迎えるパパ・ママたちに、「体験」を通して、安心して子育てをスタートしていただきたい、これが私たちの目指すところです。1人1体の赤ちゃん人形を使い、抱っこや肌着・おむつの着せ方、沐浴体験をすることで産後のイメージが沸き、育児に関する不安を少しでも軽くしたいと取り組んでいます。取り組み当初から大切にしているのは、楽しみな気持ちや不安な気持ちに寄り添うこと。最初は不安そうだったプレママ・プレパパがお帰りのときには笑顔で帰ってもらえること。部署を超えたチームの力でミキハウスらしいセミナーを作りあげてきました。

具体的な取組内容

百貨店のイベントスペースなどをお借りして小規模で「コト」の提案を始めたのは2008年。正式に「ミキハウス プレママ・プレパパセミナー」というタイトルにし、告知ページや受付フォームなどの準備が整ったのが2014年になります。開催場所は、北は北海道、南は鹿児島まで、主要都市が中心になりますが、52週、ほぼ毎週、全国各地で開催。

【実施方法】

❶ 開催種類
自社単独開催、一般企業とのタイアップ開催、自治体さまとの開催、産婦人科さまとの開催。

❷ 告知について
自社のWEB専用ページに開催ページに情報をアップ。若干でありますが、SNSの広告にも出稿、開催エリアによっては地方のテレビ局さまと組むこともあるので、テレビスポットでの告知。チラシを作成し、開催エリア付近の自社店舗や近隣の産婦人科さま、自治体さまでの窓口で案内をしていただく。

▲プレママ・プレパパセミナー

❸ 1回の開催は基本的に25組50名を1セット
応募が多い場合は平日、土日に関わらず、午前・午後・夕方（ナイト）の計3回開催することもあります。

❹ 1セミナーの開催時間
120分～140分で行い、間に休憩を15分入れます。ほぼご夫婦での参加のため、ご夫婦1組に対し、1テーブル、椅子3つが基本セットです。ご参加いただいた方には1人1体、3000g・50cmの新生児と同じ大きさ、重たさの赤ちゃん人形を用意し、肌着（短肌着・コンビ肌着）とおむつ、沐浴の体験セットを用意します。

❺ 開催内容
司会・進行は男性。女性講師がメインで肌着やおむつ、沐浴のしかたを説明。男性メンバーが前方でサポート。参加者の周りにはサポートスタッフが3～4名、この実施方法が基本。講義ばかりでは飽きてしまうため、赤ちゃん人形を使って、肌着を着せたり、おむつをつけたり、また沐浴の手順の練習をしたり、体験をメインにしています。参加者が困ったときや、分からないときなどは、周りにいるサポートスタッフが手厚くフォローします。このサポートが参加者の安心や満足につながっています。そして、最後にまとめとして先輩ママ・パパからお話をして、終了。

❻ 今後について
子育ては10人10色、違って当たり前。そういったことを伝えてくれるところもなく、会社やご近所、ご家族の中でのコミュニケーションも変わってきています。だからこそ、ちゃんと対面で「伝える場所」「聞ける場所」、そのような場所を作り続けたい。そして、今は1社ですべてやる時代は終わりました。組めるところは組む。産・官・学、業種の垣根を越えての取り組み、あわせて自治体さまや産婦人科さまとの取り組みも同様に増やしていきたい。社会全体で「子どもを産み育てやすい社会、環境に」一歩一歩前に進むことを目指しています。

健やか親子表彰　優秀賞

受賞者の声　担当者：加藤浩二・西久保江里

取組を始めた経緯は何ですか？

自身の出産準備で感じた情報不足や育児に関する不安の経験をきっかけに、ミキハウスならではのプレママ・プレパパセミナーを企画しました。仲間と試行錯誤を重ねながら、出産や育児への不安に寄り添い、笑顔で子育てを始められるよう支える体験型の取組として、10年以上継続して実施しています。

具体的にどのように取組の普及を工夫しましたか？

講義だけでなく、1人1体の新生児と同じ大きさ、重さの赤ちゃん人形を使った実践体験を中心に構成し、参加者が安心して学べる内容に工夫しています。男性司会・女性講師・スタッフが連携し、温かい雰囲気を大切に運営。口コミやSNSで共感が広がり、自然に取組が全国へ普及しました。

取り組む中で苦労したこと、大変だったことは？

当初は部署としての体制もなく手弁当でのスタート。さらに「プレママ・プレパパセミナー」という名称や「コト体験」の認知が低く、周知や集客に大変苦労しました。仲間と知恵を出し合い、告知方法を工夫しながら信頼を積み重ね、全国で継続開催できる基盤を築き上げました。

取り組む中で苦労したこと、大変だったことに対して、どのように乗り越えたか

参加者の反応やアンケートを見ながら試行錯誤を重ね、柔軟に内容の変更や運営方法を改善。その結果、参加者の満足度も上がり、口コミが徐々に広がりました。また初心を忘れず、軸をぶらさず、コツコツ継続し続けたことが、他企業さまや自治体さまからも信頼を得ることができました。

今後の展望・課題は？

セミナーの内容を時代のニーズに合わせブラッシュアップしつつ、さらに充実させ、企業や自治体、産婦人科との連携を拡大し、地域に根ざした子育て支援を強化します。また、防災・食育など産後の課題にも対応し、ママ・パパが安心して子育てを始められる社会づくりに貢献していきます。

評価委員からのコメント

SNSなどに情報があふれている時代だからこそ、対面で「体験」を提供することにこだわり、初めて出産を迎えるパパママの不安な気持ちに寄り添った素晴らしい取組です。今後も、様々な関係者と連携しながら取組を広げることで、子どものいる生活の楽しさが一人でも多くの方々に伝わっていくことを期待しています。

鹿児島県 保健福祉部 子ども政策局　子育て支援課　**大倉野 奈緒子**

受賞、おめでとうございます。1社員の、出産や子育ての不安を少しでも解消できたらという提案から始まった本取組は体験を重視したものであり、パパママが笑顔になれる内容であると感じました。「伝える場所・聞ける場所」を作り続けていくために、横のつながりを作りながらアップグレードしていく今後の取組も楽しみです。

全国養護教諭連絡協議会　常務理事（千葉県山武郡九十九里町立片貝小学校　養護教諭）　**木原 薫**

パパとなるご自身の経験からの取り組みを社会貢献として10年以上続けてこられたことが高く評価されました。リアルでの「体験」を重視した取り組みのみならず、動画配信を行うなど時代に合わせて取り組まれており、素晴らしいです。今後も新たな切り口の内容や横に輪を広げての取り組みに期待しています。

北上市健康こども部こども家庭センター所長　**菅原 奈保子**

乳児にとって、直接目を合わせ語りかけるコミュニケーションが必要です。様々な技術や工夫でサービスがデジタル化する時代だからこそ、保護者が乳児を連れて一緒に参加できる場所、地域の身近な場所で多様な他者との関わりができる活動が重要であり、社会が子どもに約束する必要があります。長年の活動に敬意を表します。

NPO法人せたがや子育てネット　代表理事　**松田 妙子**

令和7年度　健やか親子21推進本部幹事会

	氏　名	所属等
推進本部会長	岡　明	埼玉県立小児医療センター　病院長
推進本部副会長	川端 伊久乃	日本医科大学付属病院 女性診療科･産科
	上原 里程	国立保健医療科学院･疫学･統計研究部　部長
	大倉野 奈緒子	鹿児島県　保健福祉部　子ども政策局　子育て支援課
	岡田 優子	KODOMOLOGY株式会社　価値開発本部長
	奥山 千鶴子	NPO法人 子育てひろば全国連絡協議会理事長
	落合 直美	成城木下病院　師長
	木原　薫	全国養護教諭連絡協議会　常務理事 （千葉県山武郡九十九里町立片貝小学校　養護教諭）
	小林 司	日本労働組合総連合会　総合政策推進局生活福祉局長
	佐々木 渓円	実践女子大学 生活科学部食生活科学科　教授
	菅原　奈保子	北上市健康こども部こども家庭センター　所長
	高橋 幸子	埼玉医科大学　助教
	松田 妙子	NPO法人せたがや子育てネット　代表理事
	三牧 正和	帝京大学医学部小児科　主任教授
	柳生 一自	北海道医療大学心理科学部　教授

（50音順、敬称略）

●健やか親子表彰の取組は、「第25回健やか親子21推進本部総会」で発表されました。
発表資料は、こども家庭庁HPに掲載しておりますので、過去の受賞者発表資料も併せてぜひご覧ください。
https://www.cfa.go.jp/councils/sukoyaka21

●参考:健やか親子21推進本部参加団体一覧
https://sukoyaka21.cfa.go.jp/about/promotion-committee/

令和7年度 健やか親子21全国大会
（母子保健家族計画全国大会）

大会テーマ

新たな母子保健の潮流
～こどもまんなか社会の実現のために～

動画配信アーカイブURL

健やか親子21公式YouTubeアカウント

全国大会1日目のシンポジウムや主催団体の集会は「健やか親子21公式YouTubeチャンネル」にアーカイブを公開しております。ぜひご覧ください。
https://www.youtube.com/channel/UC-ElxFJ9DX-aJxQdF6RDhCA

※アーカイブは令和8年3月31日まで視聴可能です。（一部令和7年12月31日まで）

健やか親子21

こどもまんなか
こども家庭庁

「健やか親子21」は、「すべてのこどもが健やかに育つ社会」の実現を目指し、関係するすべての人々、関連機関・団体が一体となって取り組む国民運動です。

詳しくは健やか親子21公式ホームページをご覧ください。
URL **https://sukoyaka21.cfa.go.jp/**

お問い合わせ先　**「健やか親子21」事務局**（株式会社 小学館集英社プロダクション）
E-mail:sukoyaka21@shopro.co.jp

※「健やか親子21」事務局は、こども家庭庁成育局の委託事業の一部として、株式会社 小学館集英社プロダクションが運営しています。